

お詫びと訂正

▼フレグランスジャーナル 2019 年 4 月号の 125 頁。
Journal by Journal の日皮協ジャーナル, **41** (2),
2019 の p.212~218 の文献抄録が実際の論文内容と齟齬
がありました。間違った記載で皆様に迷惑をおかけ
したことをお詫び申し上げますとともに、以下に改めて
抄録したものを掲載いたします。

出典：日皮協ジャーナル, 41 (2) 2019

標題：パッチテストに関する基礎検討—フィンチャン
バーのサイズと皮膚刺激性の関係について

著者：櫻井光智子（サンスター 研究開発本部研究推
進部研究推進室） 212~218

内容：昨年までの研究を進行する中で、パッチテスト
においてチャンバーサイズが大きくなると皮膚刺激性
が増強するという現象を確認したことから、その関係
性を検討した。その結果、単位面積あたりの適用量が
多くなるのが原因で、チャンバーサイズが大きくな
るほど皮膚刺激性が高まることが明らかになった。試
験目的によって大きいサイズのチャンバーを使用する
場合は、単位面積あたりの適用量を揃えた濃度設定を
行う必要性が示唆された。